

山形県立農林大学校

同窓会だより

第12号

平成31年 2月20日

発行／山形県立農林大学校同窓会
〒996-0052 新庄市大字角沢1366
(山形県立農林大学校内)
TEL 0233-22-1527
FAX 0233-23-3119

変化に対応する力

同窓会長 庄 司 茂
(金山町 昭和48年度卒)



同窓会員の皆様におかれましては、新たなシーズンにむけて、経営計画の作成や準備作業に追

われているのではないでしょう

うか。平成の時代も間もなく終わろうとしており、新しい時代の幕開けです。ロボットやIoT、AI(人工知能)などの先端技術を活用した「スマート農業」が始まり、私達は、今まさに農業技術革新の第一歩を踏み出しているのです。

近年、ニュースでは「100年に一度の豪雨」等、異常気象の記録更新を耳にするようになりました。昨年は、山形県内でも一部地域で豪雨や台風等の自然災害に見舞われ、今後は厳しい気象条件下での栽培管理が求められることになるとでしょう。さらに、米政策の転換、TPPや日欧EPAによる外圧の影響など、農業情勢は常に動いています。このような変化に対応していくためには、農大同窓生が中心となり、地域性と技術力、

並びに会員相互のネットワークを活かし、最新技術等の情報交換や実践を積極的に行うことで、産地強化やブランド力向上が図られ、本県農業の振興に大きく寄与することと確信しております。

また、昨年3月に卒業した林業経営学科第一期生が、森林組合、製材会社等で即戦力として活躍されていることを耳にし大変うれしく思っています。農林大学校で学んだ技術や知識を十分に発揮し、本県林業の振興に尽力されることを思います。

現在、技術革新やグローバル化が急激に加速する中で、ハイレベルな農林業担い手の育成が求められていることから、農林大学校は最も重要な教育機関であると考えます。同窓会員の皆様には、同窓会組織の活性化とともに山形県立農林大学校の教育目標である「高度で実践的な人材育成」への支援により一層のご協力を賜りたいと存じます。今後とも同窓会活動を十分ご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、本校の在校生の状況は、非農家出身学生の割合が5割を超えている現状に加え、非農家出身学生を中心に農業法人に就職する「雇用就農」の希望者が多くなっています。一方、本県では農業法人が増加しており、今後の重要な農業の担い手として期待されています。このため、本校では、従来の親元就農に加え、雇用就農を農業担い手育成の新たな柱として重点的に取り組んでいるところです。

これまで、進路支援として、就農、就職及び進学の3コースとなっていました。新たに「雇用就農コース」を設け、一層きめ細やかに対応することになりました。

また、カリキュラムの見直しを行い、専攻学科以外の科目の選択や農産加工を必修とする「副専攻基礎講座」を導入

農林業の担い手育成の新たな取り組み

農林大学校長 石川 一夫



同窓会の皆様には、日頃より本校の運営及び機能強化のため、御理解と御協力を賜り感謝申し上げます。

今後、農業経営に重要な「GAP」や「農場HACCP」の講座を新設し、認証取得に取組んでいます。

就農支援については、農業法人等合同就職相談会の開催やインターンシップ等を実施し、学生が希望する農業法人と農業法人が求める人材のマッチングを行っています。

また、祖父父母の経営を継承する孫就農や市町村等と連携した新規就農、第三者継承にも取り組んでいます。このような取組みにより、本校の就農率が6割以上と向上し、うち雇用就農が約半分を占めるようになっていきます。今後とも、本県農林業の状況の変化に応じて常に教育内容等の充実・深化させながら、本県農林業を牽引する人材を育てていきたいと考えています。

同窓会の皆様の御理解・御支援が不可欠でありますので、よろしく申し上げます。